

道路の不具合を市民が通報 アプリ「まちカメくん」登場

豊中市は10月2日から、道路損傷等通報アプリケーション「まちカメくん」の運用を開始した。無料でダウンロードできるスマートフォンのアプリで、市民らが道路の不具合を発見した時に、その場所や損傷状況を迅速に市に通報できるというもの。カメラで撮影した不具合箇所の画像が、GPSで確認した位置情報とともに、市にメールで伝えられる仕組みだ。道路の不具合に関しては、普段から市職員によるパトロールも行っているが、市全域の状況を把握するまでには至っていない。アプリを使用し、市民らがより手軽に通報できるようになれば、市全域における不具



「まちカメくん」で検索してダウンロードできる。

合箇所の早期発見や早期修繕につながると期待される。運用開始から1カ月で179件のダウンロードがあり、アプリを通じた通報は20件だった。市の担当者は、「市民の方の力をお借りして、道路利用者に危険を及ぼすような不具合箇所の早期修繕を行い、事故等を未然に防いでいきたい」と話す。

日本初「学校応援でんき」高槻市でスタート

学校を舞台にした日本初の電力サービス「学校応援でんき」の第1弾を1月から高槻市で開始する。同サービスを通じて電力を購入することで、学校へ応援金が還元される仕組みだ。高槻市は、太陽光発電設備設置に係る公共施設の屋根貸し事業を行い、株式会社柴田工業（名古屋市）が3施設で採択された。この事業に株式会社NTTスマイルエナジー（大阪市）とみんな電力株式会社（東京都世田谷区）が賛同し、「学校応援でんき」を企画、今回のサービス実現に至った。NTTスマイルエナジーが企画コーディネートし、柴田工業が学校の屋上に設置。その太陽光発電の電力を、みんな電力が全国の消費者、特に設置した



高槻市立柳川小の屋上に設置された太陽光発電装置。学校の卒業生や在校生の家族などに向けて販売する。高槻市立第六中学校と同芥川小学校、同柳川小学校の3校からスタートし、他の自治体へも提案を進め、順次拡大していく予定。高槻市は、応援金を環境基金として受け取り、住宅に設置する太陽光発電設備への補助金や市内一斉清掃の用具購入、市内の小中学校に設置されている「緑のカーテン」の維持管理費用などとして活用するとしている。

摂津市 路上喫煙禁止地区を指定

摂津市は、4月に制定した「摂津市健康づくり推進条例」に基づき、12月1日、路上等の屋外公共スペースでの喫煙を禁止する地区を指定した。対象地区はJR千里丘駅と阪急摂津市駅周辺、および両駅間の千里丘三島線。同市における路上喫煙禁止地区の指定は初めて。今回の指定は、



市民一人ひとりの健康づくりの意識向上を目指すものであり、罰則規定は設けていない。ただし、悪質な違反者に対しては勧告等を行うという。なお、ポイ捨ては市全域で禁止されている。今後、イベントや駅前でのビラ配り、ポスター掲示などを通じて市民への周知を目指していく。



「飲酒運転を絶対にしない、させない、許さない」を徹底しよう

協力：大阪府警察

年末年始にかけて、忘年会や新年会などお酒を飲む機会が増える時期となる。飲酒運転には厳しい罰則が設けられているが、残念ながら飲酒運転による交通事故発生件数は増加している。

大阪府下における飲酒運転事故等の関係件数について（2017年10月末時点）

- ・事故発生件数… 166件（前年比 + 9件）
- ・事故死者数… 10人（前年比 ± 0件）
- ・飲酒運転取締総件数… 1,052件（前年比 - 81件）

※飲酒運転による事故とは、原付以上の第1当事者による飲酒運転（酒酔い、酒気帯び【呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上のアルコールを身体に保有】、基準以下及び検知不能）事故のこと。

飲酒運転をすることはもちろん、飲酒運転を助長する行為（車両提供・酒類提供・車両同乗）にも厳しい罰則が設けられている。飲酒運転は犯罪であるということを認識し、「飲酒運転を絶対にしない、させない、許さない」を徹底しよう。



植木鉢やタイヤを太鼓に改造して演奏する「トゥーンバ太鼓」。

日豪を結ぶ架け橋に 和太鼓を贈る寄付を呼びかけ

高槻市とオーストラリアのトゥーンバ市は平成3年に姉妹都市提携を結び、以降互いの市を訪問しさまざまな文化交流を重ねてきた。平成28年の25周年記念イベントでは、高槻市民が和太鼓をトゥーンバ市民公園で演奏した。それに魅了されたトゥーンバ市民が「素晴らしい日本文化をトゥーンバに広めたい」と和太鼓グループ「トゥーンバ太鼓」を結成。しかしオーストラリアでは太鼓の入手が難しく、植木鉢やタイヤを改造して練習に励んでいるという。そこで和太鼓を同市に贈呈することを目的に、高槻市観光協会の代表理事や高槻太鼓ら有志で「トゥーンバへ和太鼓を贈る

会」を立ち上げ、寄付を募ることになった。贈る会会長の金田さんは「トゥーンバの子どもたちが演奏する和太鼓を、高槻の子どもたちが歓迎する。そんな日がきてほしい」と語ってくれた。

寄付については高槻市都市交流協会（電話072-674-7396）に問い合わせを。

商店街の魅力を伝える映像 「豆腐とばってら」

茨本市のまちづくり交流ステーション「茨木にぎわい亭」で12月2日に行われた茨木商工会議所主催「冬のガンバル市」において、茨木商店街活性化映像「豆腐とばってら」が上映された。地域の商店街の大切さを伝えるためのドキュメンタリー映像で、昨年夏の「旅立ちと笑店街」に次いで2作品目となる。今回は、購入したことを忘れて豆腐とばってらを何度も買おうとする認知症の高齢者のエピソード。スーパーで買うばってらは冷蔵庫に貯まる一方なのに対し、商店街の豆腐店では、顔馴染みになっている店員が気づいて「さっきも



映像は約5分。商工会議所と追手門学院大学の学生が共同で制作した。前作と合わせて、YouTubeでの視聴が可能だ。

買ってたよ」と声をかけてくれるので、買いために済んでいるというストーリーだ。実話をもとにしており、商店街における対面販売の重要性や魅力を伝えている。商工会議所の担当者は、「地域の活性化はもちろん、地域の人全員が助け合える街を作っていきたい。そのために商店街の存在が大きな役割を果たすのでは」と話す。

摂津市 43年間、新1年生全員に ランドセル無料配付

摂津市は、今年春に市立小学校へ入学する新小学1年生にランドセルを無料で配付した。家計への負担を減らし、かつ、子どもたちに小学校入学を楽しみにしてもらうことを目的とした取り組みで、1975年から今回の配付で43年間続くことになる。北摂では摂津



色は紺と赤。男女問わず希望の色を選ぶことができる。

市のみ、全国でも珍しい取り組みだ。今年度の配付対象は751人。例年、ほぼ全員の小学生がこのランドセルを使用しているという。ランドセルはナイロン製で、その軽さが最大の特徴。A4サイズのファイルも収納できる大きさだ。市は、今後もこの取り組みを長く続けていきたいとしている。